

1,科学革命=ルネッサンスと宗教改革→従来の束縛から解放→世界の科学的な探究に着手

- ┌ガリレイ(1564~1642)---天文学・力学全般にわたる研究→コペルニクスの地動説の確実な基礎
- └()1(1571~1630)---惑星の運行に関する研究=楕円軌道・面積速度一定・調和の法則
- └ハーヴェー(1578~1657)---医学。血液循環の原理を発見→生体の動きも合理的に理解
- └()2(1626~91)---気体の圧力と体積 ホイヘンス(1629~95)---光の波動説→近代化学
- └()3(1642~1727) 主著『プリンキピア』万有引力の法則。微積分法。
- └ライプニッツ(1646~1716)、パスカル(1623~62)、デカルト(1596~1650)→近代数学の基礎

18世紀 ┌化学のラヴォワジェ(1743~94) =物体の燃焼 分類学の()4(1707~78)「自然の分類」

└博物学のビュフォン(1707~88) 天文学のラブラース(1749~1827) =宇宙進化論

└種痘法を発見した()5(1749~1823) など

2,新しい社会思想・経済思想

- ┌国家主権の概念---ボダン(1530~96)→教皇、皇帝などの同意なしに決定権を持つとして王権を擁護。
- └王権神授説---ボシュエ(1627~1704)→王は[]にのみ責任。人民、教皇、皇帝に拘束されない。

社会契約説=社会・国家の仕組みについての合理的な解釈の試み⇒変革・革命の主張の根拠

- ┌()6思想---現実の法律のうえに普遍的な法が存在し「自然権」を与える。
- └社会契約説---「()7」をそなえた個人の契約によって社会が成立した。

オランダ ()8(1583~1645) 『戦争と平和の法』『海洋自由論』

→自然法思想を国際関係(戦争・海洋)にあてはめる→「国際法の父」「自然法の父」

イギリス①()9(1588~1679) 『リヴァイアサン』国教徒。清教徒革命中フランスへ亡命。

┌自然状態=「万人の万人に対する()10」 →社会契約によって国家を形成

└個人の自然権はすべて国家にゆだねられる→()11の絶対性

②()12(1632~1704) 『市民政府二論』清教徒。オランダに亡命。名誉革命後帰国。

┌社会契約は個人の自然権の一時的委託にすぎない

└政府が人民の生命・自由・財産を侵害→人民は政府を交代させることができる

⇒「()13権」「()14権」→名誉革命の理論的な基礎

→アメリカ独立革命やフランス革命にも大きな影響

[()15学派---ケネー(1694~1774) 『経済表』 テュルゴ(1727~81) 『富に関する省察』ら

┌富の源泉を農業生産=労働に求め→重商主義を批判。経済活動の自由を主張。

└「なすにまかせよ」=レッセフェール⇒「()16主義」

→重農学派の経済的自由主義は古典派経済学が継承

古典派経済学---アダム=()17 (Adam Smith, 1723~90) ⇒プリント31『産業革命』参照

3,近代哲学=世界を認識するための方法的基礎の研究

イギリス経験論---フランシス=ベイコン(1561~1626)→経験的に得られた知識を重視

観察と実験により一般命題へ至る()18法

大陸合理論---()19(1596~1650)◆a→人間の理性の働きを重んじる

命題から数学的な方法で正しい知識に至る()20法

◆a---主著『方法序説』の「われ思う、ゆえに[]21あり」自我、理性を出発点とする。

二つの考え方→近代哲学の二大潮流 →いずれも人間の認識の根拠を追求

- ┌()22論---ホッブズ(1588~1679)・ロック(1632~1704)・ヒューム(1711~76)
- └()23論---スピノザ(1632~77)=汎神論・ライプニッツ(1646~1716)=单子(モナド)論
- パスカル(1623~62)『パンセ(瞑想録)』キリスト教の立場から心情の論理を重視

ドイツ観念論哲学---()24(1724~1804) 主著『純粹理性批判』 →認識能力の根本を問う批判哲学

知識の内容→経験から 知識の組み立て→理性 ⇒経験論と合理論を統一

『永遠平和のために』(1795) プロイセンとフランスのバーゼルの和約締結の年

→()25の全廃、「世界市民的秩序」、国際的平和機構の設立を構想

4,啓蒙思想

啓蒙思想---18世紀フランス=理性を基準としていっさいの迷蒙を打破しようとする

- モンテスキュー(1689~1755) 『法の精神』
- ()26を説く=君主の専制をぶせぐものとしての貴族の権利を擁護
- 「一人の人物あるいは組織が立法権と行政権を持つと、そこには()24が存在しない」
- ()27(1694~1778) 『哲学書簡(イギリス便り)』イギリスへ亡命。
- イギリス思想を紹介 宗教的寛容を説く 旧体制を批判
- ()28(1712~78)『社会契約論』『人間不平等起源論』スイス、ジュネーブ生まれ。
- ┌君主主権に対する()29の原理にもとづく直接民主主義
- └富の不平等を批判⇒近代社会そのものの欠陥を指摘。 「()30に帰れ」とも。

百科全書派---ディドロ(1713~84)やダランベール(1717~83)らの『百科全書』 合理主義・個人主義・自由主義

『科学・技芸の合理的事典』(1751~72年に初版28巻を刊行)⇒啓蒙思想の普及

⇒()31の尊重と経済的自由の実現を求める市民=ブルジョワ=階級の利害を代表

5,絶対王制下の文化=宮廷とむすびついた文化

- アカデミー・フランセーズ---1635年リシュリューにより創設→フランス語が各国の宮廷語に
- 美術---豪壮・華麗な()32式---代表ヴェルサイユ宮殿
- 画家 ┌()33地方のルーベンス(1577~1640)や、ファン=ダイク(1599~1641)
- └()34のエル=グレコ(1541?~1614)、ベラスケス(1599~1660)など
- └()35のレンブラント(1606~69)、フェルメール(1632~75)

18世紀 繊細で装飾の多い()36式

建築---フリードリヒ2世のたてたポツダムの()37=「憂いなし」=宮殿

絵画---フランスのワトー(1684~1721)など

音楽---宮廷と教会を背景に ドイツ---イタリアの影響

- ┌バッハ(1685~1750)、ヘンデル(1685~1759)の()38音楽
- └ハイドン(1732~1809)、モーツァルト(1756~91)、ベートーヴェン(1770~1827)⇒()39派音楽

文学---17世紀フランスの古典主義文学

悲劇作家コルネイユ(1606~84)、ラシーヌ(1639~99) 喜劇作家()40(1622~73)

イギリス革命期→ピューリタン文学の傑作 18世紀前半→英国の海外発展を反映

- ┌()41(1608~74)---ピューリタン詩人、楽園追放の主題『失楽園』
- └バンヤン(1628~88)『天路歷程』伝道師。寓意物語。英語で最も読まれた書。
- ┌()42(1660~1731)『ロビンソン=クルソー』=市民文学。開拓精神。
- └スウィフト(1667~1745)『ガリヴァー旅行記』=風刺文学の名作。4つの国の訪問記。



ニュートン



ロック



ルソー



絵 フェルメール



バッハ



モーツァルト

- ・帰納 ・演繹 ・古典 ・抵抗 ・戦い ・合理 ・自然 ・自由 ・経験 ・革命 ・ルソー ・ボイル ・ロック
- ・カント ・スミス ・リンネ ・ロココ ・所有権 ・自然権 ・自然法 ・常備軍 ・自由放任 ・三権分立 ・国家権力
- ・人民主権 ・オランダ ・スペイン ・ケプラー ・ミルトン ・ホッブズ ・デカルト ・デフォー ・バロック(2)
- ・ニュートン ・フランドル ・ジエンナー ・モリエール ・グロティウス ・ヴォルテール ・サン=スーシ